

2013年10月25日

中国電力（株）

取締役社長 荻田知英様

島根原発の再稼働に向けた一切の手続きを停止し、即刻廃炉を求めます

福島第一原発事故から2年半が過ぎようとする現在、福島第一原発は地下水流入と共にタンクからの汚染水漏出を止めることもできない状況が続いています。事故を起こした原発の中では、高線量の放射線を浴びながら約3000人の作業員による収束作業が続けられています。

一方、福島県内外では、放射能で汚染された故郷を追われ、現在でも14万人以上の方が過酷な避難生活を強いられています。中には、故郷に戻る見通しさえ立たない方、戻ることをあきらめざるを得ない方々もたくさんいらっしゃいます。

福島が直面しているこのような現実、ひとたび原発が重大事故を起こせば、原発立地自治体はもちろん、気象条件次第で30km以上離れた地域でも放射能で汚染され、居住困難となり、一切の生活・経済活動が不能となることを突き付けています。

現在、原子力規制委員会は新しい規制基準を策定し、島根原発を初めとする各原発における安全対策を求めています。福島原発事故の全容解明もない現状で、この基準は原発の安全を担保するものではありません。まして、島根原発の近くには活断層もあり、その安全性は全く保障されてはいません。さらに、使用済み核燃料の安全な処分方法は、未だに確立されていないのが現状です。

貴社は、このような状況の中、年内にも島根原発子力発電所2号機の再稼働を目的として、「規制基準適合性審査」申請を行おうとしています。今、再び島根原発を稼働させれば、私たちの住む町はフクシマの二の舞になりかねません。万が一にも重大事故が怒れば、大混乱が生じるのは避けられません。

このような事態を避けるため、私たちは、貴社に対して再稼働への一切の手続きを停止し、島根原発を即刻廃炉にすることを強く求めます。

2013年10月25日

ランチタイムアピール参加者一同